

北海道東域を対象とした陸海結合システムの解析

Study on land-marine coupling system in Eastern Hokkaido, Japan

*長尾 誠也¹、西岡 純²、三寺 史夫²、白岩 孝行²、伊佐田 智規³、黒田 寛⁴

*Seiya Nagao¹, Jun Nishioka², Fumio Mitsudera², Takayuki Shiraiwa², Tomonori Isada³, Hiroshi Kuroda⁴

1. 金沢大学環日本海域環境研究センター、2. 北海道大学低温科学研究所、3. 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、4. 北海道区水産研究所

1. Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University, 2. Institute of Low Temperature Science, Hokkaido University, 3. Field Science Center for Northern Biosphere, Hokkaido University, 4. Hokkaido National Fisheries Research Institute

北太平洋の縁辺海には、大陸から長江、黄河、アムール川等の大河川が流れ込むことで、陸域の影響が大きく現れる。また、これら河川を通じて陸からの物質を受け取り、縁辺海内部で起こる様々な物理的プロセスと生物的・化学的反応を介して物質循環が活発に起こっている場所である。これらの縁辺海は、陸域の影響を大洋に伝える間の緩衝作用も担うと同時に、北西部北太平洋に多大な影響を与えている。そのため、陸海を結合するシステムを理解することが重要である。しかし、対象とする環境スケールが、陸-極沿岸、極沿岸-沖合、沖合-縁辺海（外洋域）と異なるため、全ての領域を統合するためには同時観測を実施し、化学・生物・物理の各観測項目を分析・解析する必要がある。本研究では、北海道大学低温科学研究所開拓型研究「陸海結合システムの解明 - マルチスケール研究と統合的理解 -」において、陸海を結合するシステムを解析する課題点を抽出し、陸域と沿岸域の調査を計画した。沿岸域の生物生産において、湿原から供給される栄養塩・有機物・鉄の重要性を評価するため、北海道東域の別寒辺牛湿原・厚岸湖・厚岸湾・親潮海域を対象に平成29年10月に第1回の総合集中観測を実施した。講演では、本研究の目指す方向性ととも、第1回の観測の概要と得られた成果の一部を紹介する。

キーワード：湿原、鉄、栄養塩、縁辺海

Keywords: wetland, iron, nutrients, marginal seas